

# 共生

奈良県生協連

2017年 10月

NO.106

第6回 なら小地域福祉活動サミット2017  
広がれ、子ども食堂の輪！全国ツアー in なら  
主催：社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会 共催：奈良県

広がれ、子ども食堂の輪！全国ツアー in なら  
「奈良子ども食堂ネットワーク」設立



▲第6回なら小地域福祉活動サミット2017



◀ピースアクション in なら2017  
劇団「へいわ座」

## もくじ

ピースアクション in なら2017……………	1・2	東吉野「つくばね発電所」……………	6
食の安全……………	3	なら小地域福祉活動サミット2017……	7・8
生協組合員理事交流会……………	4	第25回奈良県協同組合デーのつどい他…	9
福島の子ども保養プロジェクト in なら……	5	3.11を忘れない……………	10



9月30日(土)「ピースアクションinなら2017」を開催しました  
今こそ聴こう! 考えよう! 行動しよう!

# 核兵器禁止条約締結の実現に向けて

9月30日奈良商工会議所中ホールで「ピースアクションinなら2017」を開催しました。7月に国連総会で核兵器禁止条約が採択され、9月には50以上の国・地域の署名があり発効に向け進みだしました。これを受け、核兵器禁止条約と核兵器をとりまく世界情勢について学ぶこととし、公益財団法人広島平和文化センター常務理事岩崎静二氏の講演を聴きました。参加者は68名でした。

講演に続いて、広島で被爆された県内在住の松本有紀江さんによる被爆証言に参加者はじっくり耳を傾けました。また大学生の自主的な平和活動「PeaceNow! 奈良2017」について実行委員長の長久実由さんからの報告があり、最後は劇団「へいわ座」による寸劇「核兵器はいらない! 2017」の上演でヒバクシャ国際署名を会場に呼びかけました。



会場の様子

## ■ 岩崎静二氏 基調講演「核兵器をとりまく世界情勢」

岩崎氏は、第3次大戦瀬戸際の危機がこれまでに10回以上もあったことや千回を超す事故があったことなどに触れながら、核兵器をもつことのリスクを指摘、核軍縮がすすまない理由と核軍縮に向けた国際社会の動きについて詳しく説明されました。核兵器保有で国家同士がけん制しあう「核抑止論」は子どものけんかの理屈であり、廃絶に向け市民の力の結集が必要と強調されました。現に核兵器禁止条約の採択プロセスには、市民団体の関与がこれまで以上に大きな力となったことということです。残念ながら条約には核保有国と核の傘に依存する国は参加しない立場ですが、幅広い議論で多数の国の参加を広げることが大切と話されました。また、広島平和文化センターが事務局となっている「平和首長会議」の取り組み紹介、及び被爆の実相を伝えるDVDの上映もあり、被爆体験の継承と伝承の大切さや、世界に向け平和の大切さを発信する平和都市ヒロシマの姿が伝わりました。



講師の岩崎氏



松本 有紀江さん

## ■ 松本有紀江さんの被爆証言 (一部を抜粋し紹介します)

私は当時、広島の女学生で、学徒動員先の陸軍施設で被爆、建物に逃げこみ助かりましたがクラスメイトの多くが亡くなりました。そのころ米軍が空から何かピラを撒きましたが、拾うことは禁じられていたので、それが日本の国民に「ポツダム宣言を受け入れるよう声を上げろ」と書いてあったと分かったのは戦後30年もしてからでした。原爆が落とされてから私が見たものは、皆さんがパネルや写真で見るところではない、それはそれは凄惨な光景でした。皮膚はただれボロボロに垂れ下がり、衣服は焼けて剥がれ裸ですから荒縄でもあればと探したけれど見当たらない、そんな人たちであふれていました。御幸橋にさしかかると、欄干の下を死体が流れてきます。お願い、連れて行ってと声が聞こえたけれど、14歳の女学生の私たちはどうすることもできずごめんなさいとあきらめ、先に進みました。次の橋も何とか渡ると、4キロ以上も続く砂浜があります。そこに次々と助かった人たちが逃げてきます。傷口にすぐに蛆がわいてきます。様態の悪い赤ちゃんとお母さんが別れ別れになったりもしました。大きな穴を16個掘ってあり、死んだ人を放り込み夜になると火をつけました。闇夜でもはっきりとすべてが見えました。子どもの大きな泣き声もよく覚えています。

私は今年で88歳になりますが、またみんなと、そして先生と会いたい。亡くなったクラスメイトに、平和な世の中が来たよ、頑張ってきたよと、報告したいのに、それができないのが悔しいです。

## ■長久実由さん「Peace Now! 奈良2017の報告」

奈良教育大学、奈良女子大学、奈良県立大学の3つの大学生協学生委員が実行委員会をつくり奈良の戦跡をめぐる戦争と平和を考える取り組み「PeaceNow! 奈良2017」が今年の6月11日に開催されました。実行委員長の長久さんにその報告をしていただきました。陸軍駐屯地だった奈良教育大学や、奈良女子大学などに残る戦争遺跡を回ったあと、戦争体験を聴いたりグループ討論などを行う企画でした。この取り組みを通して長久さんは、「たくさんの大学生に関心を持ってもらえたこと」、「全国に頑張りあえる仲間ができたこと」、「戦争のむごさと平和の大切さを伝える語り部になる夢を持てたこと」が、大きな収穫になったと話しました。そして「長崎の人から聞いた“今日の聞き手は明日の語り手”という言葉が心に残りましたが、今日、会場の皆さんにもこの言葉を贈りたい」と、平和の話聞いてまた人に伝えてほしいと呼びかけました。



長久 実由さん

## ■劇団へいわ座「核兵器はいらない!」

「ピースアクションをすすめる会」のメンバーがこの日のために素人劇団を結成し寸劇『核兵器はいらない! 2017』を上演しました。原案の考案からシナリオ作成、衣装・小道具などすべて全員で話し合っって作り上げ、本番は9人による熱演で「ヒバクシャ国際署名」を会場にアピールしました。



劇団「へいわ座」による寸劇

### 原爆被害者の想いと証言を語り継ぐ 入谷さんの活動を紹介

奈良市の入谷方直さんはお仕事の傍ら、奈良県原爆被害者の証言を記録に残し語り継ぐ活動をしてられます。

県内被爆者の団体は現在は解散し、活動の記録や証言集なども放っておくと散逸したままとります。入谷さんは少しでも記録として留め、継承していきたいと丁寧に情報をたどりながら活動しています。会場にも協力を呼びかけました。



入谷 方直さん

### 参加者の感想より

- 何がきっかけで核が使われるかわからない状況をなくすためにも条約を全世界の国々が守ることを促していくことが大事だと思います。
- 松本さんの涙ながらの語りはとても心に残り、自分にできることは何かと考え行動したいです。
- 伝承、語り継ぐことが大切と感じました。若い人たちの行動に感動を覚えました。
- 多数の方々が平和について真剣に考えていることに力強さを感じました。

## 広がる賛同の輪「ヒバクシャ核兵器廃絶国際署名」

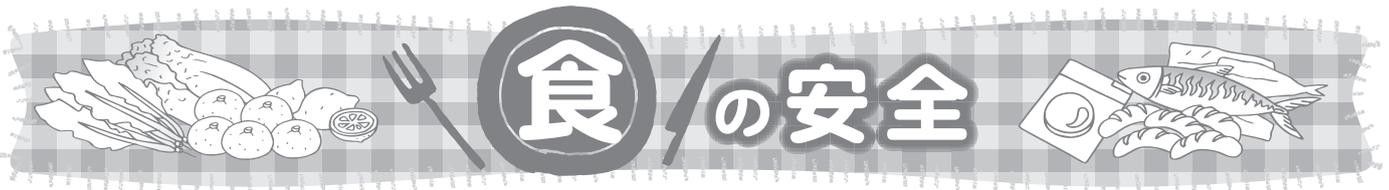
＝県内自治体首長のみならずからも賛同署名＝

「ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名」は、知事をはじめとする全国の自治体首長から多数の賛同が広がっています。奈良県でも荒井正吾知事の署名のほか、多くの市町村長が署名をされています。奈良県生協連とならコープでは自治体を訪問し、この署名について懇談をさせていただきました。すでに署名を済まされているところも含め、これまでに訪問し署名をいただいたのは奈良市、生駒市、五條市、大和郡山市、宇陀市、葛城市、吉野町、広陵町、明日香村、川上村、十津川村、野迫川村、下北山村です。どの市町村長も住民の暮らしを守る視点から平和を重視し、核兵器の廃絶を願っておられることがわかりました。これからはますます多くの人に広がるように呼びかけを進めてまいります。



8月28日 奈良仲川げん市長と懇談





## 第28回(平成29年度第1回) 奈良県食品安全 ・安心懇話会

9月4日(月)14:00~16:10、ホテルリガール春日野にて平成29年度第1回奈良県食品安全・安心懇話会が開催されました。懇話会委員(流通業代表)として、奈良県生協連の会員生協であるならコープ専務理事の山中教義氏が森宏之元理事長から交代して出席し、また、ならコープの吉田由香理事が公募委員として出席されています。

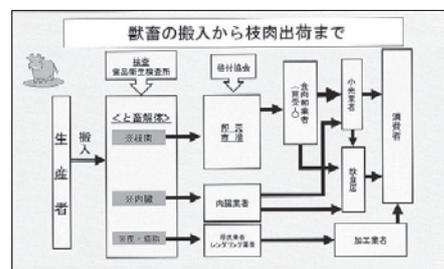
議題としては、食の安全・安心行動計画(平成28・29年度)、平成28年度奈良県食品衛生監視指導結果、「なら食に関するリスクコミュニケーション」の実施結果、奈良県HACCP自主衛生管理認証制度の進捗について報告されました。また、懇話会委員から、加工食品原料原産地表示の義務化に対する奈良県の対応、遺伝子組換え食品表示の進捗状況、ピーナッツ菓子からの基準値を超えたカビ毒問題の奈良県内での状況、韓国での卵への殺虫剤フィプロニル検出問題が及ぼす奈良県内の状況について質問が出され、回答がありました。情報提供および回答が関係課及び懇話会委員より説明があり、意見交換が行われました。



奈良県食品安全・安心懇話会の様子  
写真提供：奈良県消費・生活安全課

## 奈良県生協連主催 食の安全懇談会 「奈良県食肉センター 見学会」

9月25日(月)8:30から奈良県食肉センター(大和郡山市)見学会を実施し、各生協の役職員15名が参加しました。食肉解体の現場や食肉に適するかどうかの検査の様子について、実際の現場を見る機会を設け、理解を深める目的で開催しました。当日は牛20頭、豚72頭のと畜が予定されており、センターの概略説明を会議室で受けた後、作業員の熟練の技術で、牛のと畜からはく皮、内臓取り出し、背割りまで、安全にスムーズに作業が進められているところを見学しました。会議室に戻って食品衛生検査所の業務について説明と質疑応答がされました。と畜の現場をはじめて見た方も多く、「一頭の牛が、私たちのもとに来るまで、たくさんの人達の手を通過すること」「食品衛生検査が細かくされていること」「命をいただくという重さ」「生きている牛とスーパーの肉のスライスとの間が埋まったことは大切」などの感想を寄せていただきました。



奈良県食肉センターパンフレットより



奈良県食肉センター玄関  
(奈良県食肉公社HPより)

## 組合員理事交流会を開催しました

7月10日大和郡山市市民交流館3階大会議室で生協組合員理事交流会を開催しました。今回は3つの生協（コープ自然派奈良、ならコープ、奈良県医療福祉生協）の理事と監事、職員他スタッフ合わせて37名が参加しました。

この交流会は奈良県生協連の組合員理事同士の交流の場とすることが目的で、今回で7回目の開催です。会員生協で構成する実行委員会で意見を出し合い毎回の企画を考えてきました。

今回は各生協とも新任理事が就任されたこともあり、再び「協同組合の社会的役割」について考える機会として、講師に関西大学商学部教授でくらしと協同の研究所理事の杉本貴志先生をお招きし、2015年にお聞きした講義をさらに深める目的でワークショップを実施しました。

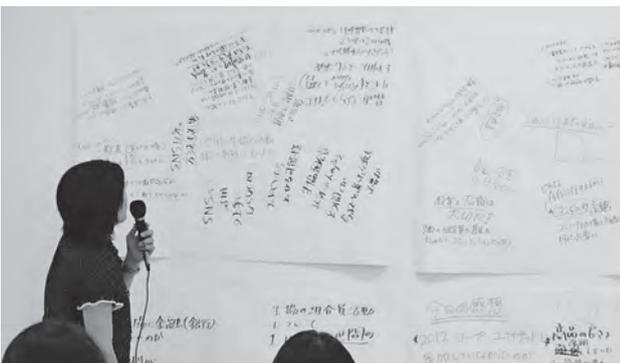
杉本先生は、「協同組合の社会的役割を考える～生協の母国イギリスと日本の生協～」と題した講義の中で協同組合が非営利の事業体であることが一般にあまり知られていない事実を指摘され、そのルーツをふりかえりながら協同組合原則に込められた生協の本質的な理念と社会から求められる役割や課題について話されました。

後半は、5グループに別れてワークショップを行い、講義の感想や先生への質問を出し合い、グループごとにまとめ、先生から質問に対して回答をしていただきました。

新任理事さんからは、「生活協同組合について知らなかったが少し理解ができた」「生協のために組合員のために何をなすべきか再び考えなおす機会となった」「組合員の役割—非常識なことを言っていますが落ち込むことも多く励ましの言葉に勇気を頂きました」との感想がだされました。



杉本貴志先生



家族でのびのびと奈良・関西を満喫!

# 「福島の子ども 保養プロジェクトinなら」

7月21日～24日「福島の子ども保養プロジェクトinなら」として、福島の子どもたちとご家族（35名11家族）を奈良県にお招きし、家族でのびのびと奈良・関西を楽しんでいただきました。（主催：市民生活協同組合ならコープ、共催：福島の子ども保養プロジェクト、東大寺、近畿労働金庫、奈良ロイヤルホテル、NPO法人Cキッズネットワーク、奈良県生活協同組合連合会）

22日は、東大寺の大仏様の大きさに驚き、奈良公園では鹿せんべいを片手にドキドキしながら鹿と触れ合いました。午後からは柿の葉ずし作りを体験しました。また、畿央大学の学生によるゲームをみんなで楽しみながら交流しました。

23日は、ご家族ごとに、思い思いに関西を楽しんでいただきました。清水寺や金閣寺、奈良公園での鹿よせ、生駒山上遊園地、鉄道博物館、海遊館そしてUSJなどなど…。

24日は、「奈良の思い出発表会」として、3日間の思い出を語り合い交流しました。参加者からは、「除染が行われた公園などは、外遊びをさせておりますが、行き届いていない山や川などは避けております」「『やっぱり大丈夫かな…』と不安になりながらも遊ばせています。何を信じ、なにが危険なのか…分からない中で、生活しているという状況です」「こちらで過ごした3泊4日、食べ物も、外での活動も安心して楽しめました」「線量の少ないところに子ども達を…と考えております。短期間でもこの奈良に来られてとてもよかったです。また、子ども達は町の中に普通に歴史がある奈良にすごく喜んでおりました」「子どもの交流、大人の交流ができ、家族の時間がありとても楽しい3日間でした」…などの感想が寄せられました。



東大寺で  
無病息災を願って  
柱の穴くぐり



奈良公園で  
鹿と触れ合って



柿の葉ずし  
作り体験



奈良の思い出  
発表会



環境のページ



# 復活 東吉野「つくばね発電所」

## 東吉野水力発電、発電開始!

8月5日に東吉野村丹生川上神社拜殿で「つくばね発電所」竣工報告祭が行われ、奈良県副知事やチェコ大使、奈良県生協連会長や関係者約70名が出席し、完成を祝いました。計画が持ち上がった2013年に東吉野小水力利用推進協議会が発足し、4年を経て発電が開始されました。



54年ぶりに復活した「つくばね水力発電所」。東吉野を売電収益で活性化させる計画。落差105メートルを利用して、発電。出力82kW、最大使用水量0.1m<sup>3</sup>/秒、年間発電量は、約64万kWh（一般家庭の年間消費電力3600kWhとして約180世帯分）。7月4日より発電を開始しました。

東吉野村小（おむら）では、大正3年から昭和38年まで「つくばね発電所」が操業。地元の製材業の動力として近代化を支えていました。

当時の取水口が残っており、2014年秋に住民たちで新会社「東吉野水力発電」を設立（森田康照社長）。小売り電力事業を進めているならコープの関連会社CWSから出資を受けたほか、市民ファンドで5250万円集めるなどして、2015年6月に着工。旧導水管を再整備し、水車を設置。総事業費は2億1800万円。今後は環境学習の場としての施設を見学してもらう計画をされています。さっそく見学の申し込みが来ているそうです。



水車はシンク社のクロスフロー水車（チェコ製）



友好のためにチェコ大使をお招きしました。



建屋前では桜の植樹が行われました。

### 自然エネルギー学校・なら2017（共催：奈良県生協連）

奈良県生協連が支援する「地域未来エネルギー奈良」が、今年度も自然エネルギー学校・ならを開催します。

#### 2017年

- 第1回 10月 1日（日）木質バイオマスの現状と課題
- 第2回 10月29日（日）木質バイオマスの利用
- 第3回 12月 1日（金）～2日（土）天川村薪ボイラー、東吉野つくばね発電所見学ほか

#### 2018年

- 第4回 1月20日（土）西粟倉村の取り組み
- 第3回以外は、午後13:30～16:30 場所：やまと会議室（奈良市）

# 「奈良こども食堂ネットワーク」が 設立されました

8月26日 奈良県社会福祉総合センター

## なら小地域福祉活動サミット2017の特別分科会で設立記念シンポジウム

8月26日奈良県社会福祉総合センターで、奈良県社会福祉協議会主催のなら小地域福祉活動サミット2017が開催され、地域で活動する方々やNPO、ボランティア、行政関係者など約500人が参加しました。

今年はずっと《広がれ、こども食堂の輪！全国ツアーinなら》と位置づけられ、社会活動家で法政大学教授の湯浅誠さんを講師に招いて基調講演が行われました。湯浅さんは、子ども食堂では支援する人もされる人も実はお互いがささえあっていたり、子どもだけではなく大人を含め誰でも安心できる居場所になっていたという実態を紹介しながら、これからのコミュニティの広がりの可能性について話されました。「ほっとできる居場所とは?」「地域をつくるとは?」との問いかけに、つながりささえあうことの大切さに気付かされる講演会でした。



湯浅誠さんの基調講演



活動紹介ブース



フードドライブのコーナー

ロビーには、こども食堂の活動紹介ブースが設けられ開催前や休憩時間は大勢の人でにぎわいました。また、家庭に余っている食品を寄付する「フードドライブ」のコーナーがこの日だけの実験的取り組みとして設けられ、活動に有効に役立ててもらおうとたくさんの善意が寄せられました。

### 生活支援サービス・活動の工夫も分かち合い

午後の4つの分科会のうち第2分科会は、奈良県社協とともに奈良県生協連などが世話人団体となっている「奈良県生活支援サービス・活動連絡会」の企画運営で、「あなたが主役！活動リーダーサミット—ささえあい活動の課題と工夫を分かち合おう」をテーマに行われました。香芝市社協の甲本晋哉さんがファシリテーターとなり、居場所や見守り、たすけあい活動をしている皆さんの経験や思いが交換されました。



第2分科会

## 特別分科会

## 取り組み経過や課題が報告されました

午後は「奈良子ども食堂ネットワーク」設立記念シンポジウムとして特別分科会「広がれ！子ども食堂－食卓囲んで☆笑顔つながる 地域の居場所づくりへ」が開催されました。奈良県社協の岡本晴子さんがコーディネーター、湯浅誠さんがコメンテーターで、奈良市の「大宮放課後子ども教室 キッズおおみや」から今西康乃さんと猪坂博司さん、橿原市の「大和八木子ども食堂」から西田崇行さん、斑鳩町の「子ども食堂いかるが」から小田美津子さんが、パネリストとして取り組みの経過や課題などを報告されました。子どもたちの様子や地域の中での受け止めと支援、声かけの工夫や開催場所、食材調達などについての状況や苦労した点はそれぞれに違いがあり、どの団体も創意工夫して活動されていることがよくわかりました。実践報告を聴きながら、参加者は子どもを真ん中に置いた活動の意義や可能性、そこから見えてくる地域づくりについて考えました。



左からキッズおおみや今西さんと猪坂さん、大和八木子ども食堂 西田さん、子ども食堂いかるが小田さん

## 設立式

## あたたかい居場所の広がりをめざして立ち上げ

分科会の終了後に「奈良子ども食堂ネットワーク」の設立式が行われました。ネットワークは、「子どもを真ん中に」元気に活動をつづけるために情報共有や情報提供を行い、同時に社会的な認知を高めて多くの連携や協力につなげることを目的としています。2016年5月、奈良県生協連主催の情報交換会をきっかけに、子ども食堂に係る人や団体がつながりはじめ、2017年3月にはネットワーク準備会が発足、奈良県社協と奈良県生協連が事務局を担当し、子ども食堂を運営されている皆さんとともに目的や活動内容などをみんなで協議しながら準備をすすめてきました。現在では30以上の団体が活動を始められています。

奈良県社協の浅井智子さんから呼びかけ団体の紹介と設立までの経過が説明され、呼びかけ団体のひとつである「CODOMO食堂かんまき」の中山眞由美さんが設立宣言を読み上げました。奈良県子ども・女性局の福西清美局長、奈良県社会福祉協議会竹内輝明常務理事、講師の湯浅誠さん、奈良県生協連辻由子専務理事も立会人となり設立を祝うコメントを寄せました。最後に満場の拍手をもってネットワークが設立しました。



呼びかけ団体の皆さんと設立宣言する中山さん



## 「第25回奈良県協同組合デーのつどい」が 開催されました

8月17日、ホテルリガール春日野において、「奈良県協同組合連絡協議会」の委員会が開催され、JAならけんグループ、奈良県森林組合連合会、奈良県生活協同組合連合会の5者による県内協同組合間協同の取り組みについて協議し確認しました。その後、全世界の協同組合員が心一つにして運動の発展を祝い、平和とよりよい生活を築くための企画として「第25回奈良県協同組合デーのつどい」を開催しました。会場には協同組合関係者101名が集い、講演会を聴きながら協同組合運動の意義を確かめました。

はじめに協議会委員長で奈良県農業協同組合中央会会長の中出篤伸氏の開会挨拶のあと、来賓を代表して奈良県農林部農業経済課森啓課長からご祝辞をいただき「地域活性化の主要な担い手として共助で地域を守る協同組合の取り組みに期待する」との言葉を頂戴しました。

講演会は、日本協同組合学会会長で龍谷大学農学部教授の石田正昭先生による「地域社会の未来を創る協同組合間協同」と題する講演が行われました。

石田先生は「地域社会とは人々のくらしの営みのあるところ。資本ではなく人の結合によってその暮らしを支えているのが協同組合である」とし、土台となるのは人のつながりであることを強調されました。そして「ICA第6原則」の協同組合間協同は、グローバル企業が台頭する経済の流れに対抗できる仕組みであり、さらに「第7原則」の地域社会への関わりは格差や貧困、取り残された人々をなくしていくための重要な理念と実践であると説明されました。

最後に今後の連携の可能性や学習の重要性にも言及され、協同組合運動をすすめるうえで大変示唆に富んだ内容となり、参加者は熱心に耳を傾けていました。講演の後の懇親会では、県内農産物を使った料理を楽しみながら親睦を深めました。



石田正昭先生の講演

## 「安心して暮らせる地域社会づくりをめざして」 第29回 近畿地区生協・行政合同会議が開催されました

安心して暮らせる地域社会づくりをめざして行政と生協関係者が一堂に会し交流する第29回近畿地区生協・行政合同会議が8月30日に、シティプラザ大阪で開催され、奈良県からも消費・生活安全課仲澤譲治主幹と高橋弥生主査および奈良県生協連が参加しました。

厚生労働省社会・援護局地域福祉課消費生活協同組合業務室の登内晋司氏は、地域共生社会を目指すうえで生協が地域になくてはならない存在になっていると生協の事業と組合員活動への期待の言葉を述べられました。消費者支援機構関西副理事長片山登志子氏による「消費者問題の現状と課題について考える」の特別講演が行われました。片山副理事長は「安心して暮らせる社会とはどのような社会か」「今の消費者の生活は、安心して暮らせるものになっているのか」「21世紀を迎えるにあたって、どのような消費者政策の転換がめざされたのか」「今後の課題は何か。行政と生協に期待されているものは何か」について詳しくお話しされました。

その後、①「『拠点づくり』の取り組み～くらしのお困りごとを考える」(コープこうべ)、②「『共住プロジェクト』&『共同墓』の活動紹介」(京都高齢者生協くらしコープ) ③「大阪府における公民連携の取り組みについて」(大阪府)の各報告があり内容についての質問や意見交換が行われました。



# 3.11を忘れない

みやぎ生協から  
被災地・宮城のいまをお伝えします

## 生き辛さを抱える移動困難者たち

2017年9月5日

高齢や障がい、病気などで歩行が難しく、“自力では行きたいところに行けない”人たちを移動困難者と言います。

どの地域にもいる移動困難者が、いちどきにたくさん、極限の状態では出現したのが6年前の震災でした。

以前から移動に困難を抱えていた人は震災でより状況が悪化しました。震災前は車で移動していた人も、車を流して免許を返納したり、家族と生活を分けたために送迎してもらえなくなったりして、通院や買い物が難しくなりました。

また避難生活が長期化するなかで心身が弱り、外出の機会が減るなどの条件が重なって介護度があがるという悪循環も生まれました。

「移動支援Rera(レラ)」は、石巻エリアの移動困難者を対象に送迎支援を行なっているNPO法人です。利用者は1日平均延べ70人、年間で約2万人。約9割が通院目的で、利用者からは「レラさんのおかげで病院に行ける事がありがたい」「レラがないと寝たきりになると思う」などの声が寄せられています。

Rera代表の村島弘子さんは「自立生活を何とか維持できていて、これからも維持したいから移動を手伝ってほしいという方が多い。外出を止めれば介護度があがるのに、その外出に対する支援が空白になっている」と話します。障がい認定を受けている場合など行政からタクシー券の支給はありますが利用額は決して十分とは言えません。「“親の通院にかかるタクシー代を払いきれない。自分が送迎するため離職したら収入が断たれる”。そんな切羽詰まった相談もあります」。

Reraが活動を始めて6年5カ月。「仮設住宅が解消されたら活動に区切りをつけようと思ったこともありますが、いま止めると“生きていくのが大変な人たちがますます困窮すると思い、続ける決意をしました」。

被災地ではいま新しいまちづくりが進んでいますが、移動困難者の存在は復興の陰に隠れて見逃されがちです。移動困難者の生き辛さに気付き、“公助”はもとより、地域での“共助”をどうつくっていくかが問われています。



送迎講習会の開催や行政への政策提言、利用者への公共交通の案内など、安定的な移動手段を確保していくための努力が続きます。「移動支援Rera」代表の村島弘子さん。



2011年の活動開始以来13万人の“命をつなぐ足”として移動困難者を支えてきました。スタッフの多くは地元のボランティアです。

# 県連日誌

## 7月

- 3日 近畿地区生協府県連協議会
- 6日 「『子どもの貧困』に関する研究会」学習会(日本生協連)
- 10日 第7回生協組合員理事交流会
- 13日 奈良県生協連第2回理事会
- 18日 奈良県防災プラットフォーム連絡会
- 21日~24日 福島の子ども保養プロジェクトinなら
- 27日 日本生協連関西地連運営委員会
- 31日 奈良県労済生協総代会

## 8月

- 17日 第25回協同組合デーのつどい
- 25日 消費生活協同組合指導検査：奈良県労済生協
- 26日 なら小地域福祉活動サミット(奈良子ども食堂ネットワーク設立)
- 28日 消費生活協同組合指導検査：生活クラブ生協
- 28日 奈良市長訪問
- 30日 第29回近畿地区生協・行政合同会議

## 9月

- 6日 川上村村長訪問
- 8日 消費生活協同組合指導検査：奈良県医療福祉生協
- 12日 住と健康に関する懇談会
- 13日 吉野町町長訪問
- 15日 奈良県消費税軽減税率制度実施協議会
- 19日 十津川村村長訪問
- 20日 野迫川村村長訪問
- 21日 奈良県生協連第2回理事会
- 21日 奈良県生協連会員生協理事長交流会
- 25日 2017年度食の安全懇談会(県食肉センター見学)
- 26日 広陵町町長訪問
- 30日 ピースアクションinなら

# お知らせ

## 予告 第5回いきいき健康まつり

- 日 時：11月23日(木) 10:30~14:30
- 場 所：みみなし診療所生協ホール・西側駐車場
- 西側駐車場：委員会のメンバーによる模擬店、支援団体のブース、フリーマーケット。
- 生協ホール：くらし・介護の相談コーナー、健康チェック(血圧・体脂肪・骨密度・血流)を予定しています。
- 主 催：奈良県医療福祉生活協同組合



## 編集後記

本屋が1軒もない自治体が2割に上るそうです。わが町もそうかもしれないと思いつつも、電子書籍を試してみたり新聞をデジタルに変えてしまいました。でも、本のあの独特の匂い、頁をめくる音だけはデジタルには替え難いもの。これからも本屋さん、よろしくお願いします！  
(由)

「老いた親のきもちがわかる本」が出版された。「親は自分の未来のモデル」とのこと。認知症が少し進んでいる義母とかかわって、2年たった。理解することが難しくてもやさしく向き合えるようになれば。  
(和)

東京に住む孫がそろそろつかまり立ち。もうじき1歳になる。11月初めに東北に用事があるので、寄って会いに行つて来よう。日々進化する赤ちゃんは、もう幼児の顔。  
(順)

8月は暑さを避けて比叡山に行ったのであまり歩くことはありませんでした。暑さも峠を越え、今回、秋篠寺の東洋のミュージズ「技芸天像」を鑑賞しながら佐紀古墳群を廻って2万6千歩。私の周りのあわただしかったこの夏を吹き飛ばしてくれる一日になりました。  
(佳)